

福島第一原子力発電所の事故以降、韓国では原子力施設と放射性廃棄物管理（RWM）に対する懸念がこれまでよりも高まっている。近頃は、放射線リスクと放射線被ばくが韓国にとってホットなキーワードになることが多い。

放射線被ばくを最小限に抑えるため、放射線防護プログラム（RPP）を確立し、すべての原子力施設と RWM に適用すべきである。さらに、RWM における職業被ばくを最小限に抑える RPP を確立するため、RWM の固有の特性、粉塵、高放射線、放射性廃棄物の漏えいの可能性などを検討する必要がある。

韓国は RPP を確立しており、原子力プラント、廃止措置、蒸気発生器の交換のような大規模プロジェクトにおける RWM の分野の経験がある。これらの分野で放射線防護と ALARA を確実に実践するために多くの努力を要した。RPP の改良のため、経験のフィードバックに継続的な努力が必要である。